

令和元年度普及指導活動成果事例



令和2年4月

青森県農林水産政策課

表紙写真

東青地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：トマト指定産地の生産力向上
「2本仕立てUターン誘引栽培
講習会」

西北地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：極良食味品種「青天の霹靂」の
高品質・良食味生産
「適期追肥講習会」

中南地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：農業経営基盤の強化による地
域経営体のステップアップ
「統合準備委員会の設立」

上北地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：農山漁村の女性が活躍できる環
境づくり
「かみきた畑美人交流会」

三八地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：安全・安心をPRできる農産
物の生産推進
「GAP認証審査の様子」

下北地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：下北地域の農業を担う新規就農
者の育成
「夏秋いちご先進地視察研修」

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
東青	1 「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ	青森農協生産者部会、集荷組合作付生産者部会、(株)KAWACHO RICE生産者	令和元年産におけるDランクへの格付け者は8名に減少し、管内の平均収量は8.7俵/10a、玄米タンパク質含有率6.0%以下の割合は85.1%に向上した。 また、生産目標未達の生産者及び地域が固定化していることを把握できたことから、次年度以降の個別指導に役立てることとした。	6
	2 トマト指定産地の生産力向上	青森農協トマト部会、青森農協ミニトマト部会	「2本仕立てUターン誘引栽培講習会」には、毎回20名以上の参加者があり、令和元年度の導入農家戸数は、平成30年度の28戸から34戸に増加した。 個別成績表を基にした巡回指導では、個々の課題の意識付けを行うことができた。 情報交換会では、ベテラン農家と若手農家の間で栽培技術に関する活発な意見交換がなされ、若手農家ばかりでなくベテラン農家にとっても良い技術研鑽の場になった。	7
	3 商品力が高い大粒品種ぶどうの普及拡大	青森市ぶどう協会	展示ほのシャインマスカットは、県指標（糖度18%、1粒重13g）を上回る糖度19%、1粒重15gの高品質果実が生産された。 稲作・野菜農家1名が、新規に水稻育苗ハウスで栽培を始めたほか、協会会員が新たに苗木を22本導入・定植した。 栽培面積は、1.4ha（H30）から1.5haに増加した。	8
	4 農山漁村女性の意欲・能力を生かした起業活動の推進	農山漁村女性、集落営農法人、大規模生産者等	1名が補助事業を活用して直売所を整備したことで、販売額の増加やリピーターの定着につながった。また、起業に取り組む若手女性農業者1名を掘り起こした。 外ヶ浜町にある任意組織と自治会において、それぞれで加工施設を整備し、みその試作やもち等の加工・販売活動を開始したことで、働くことに意欲的な高齢者等の活躍の場となった。	9
	5 地域経営を担う集落営農組織等の法人化と経営改善支援	集落営農法人	ネットワーク協議会を開催することで、参加する12法人の経営実態や各法人が抱える課題を関係者が共有することができ、それぞれの持つ経験やノウハウを提供し合い解決する関係が構築された。 広域連携法人を検討してきた結果、外ヶ浜町の6法人が出資して広域連携法人「株式会社アグライズ外ヶ浜」が設立された。	10
中南	6 農業経営基盤の強化による地域経営体のステップアップ	農事組合法人にしめや、村市地区集落営農組合、杉ヶ沢集落営農組合、田代集落営農組合	高収益作物「にんにく」の収穫物は今年度、初めて市場出荷され、次年度の栽培面積も40aから45aと拡大し定着が進んでいる。 4集落営農組織では事例調査を行い、集落営農の組織化の手法や特定農業団体、特定農業法人の運営方法を学んだ。 令和2年1月には(農)にしめやへの加入同意書(64戸、加入率95%)がまとまり、4月に統合することとなった。	11
	7 多様な農業・地域活動にチャレンジする女性農業者の育成	女性起業家、「農のふれカフェ」登録者	「農のふれカフェ」実践者2戸が自家生産物を生かした2つの体験メニューを開発し、1戸は食事客へのお土産品として加工品1品を開発した。 カフェ会議を通じて、「農のふれカフェ」を連携して進める必要性を理解してもらった。実践者はパンフレット配布やマスコミの活用により、お互いの活動をPRした結果、令和元年度は8戸で延べ99日営業し、725人の消費者を受け入れた。	12

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
中南	8 田舎館産米のブランド化に向けた栽培技術の確立	田舎館村「稲華会」	肥培管理技術が統一して実施され、高品質米を安定生産することができた。 25都道府県の110の小売店で取り扱われ、ブランド米としての一定の地位を確立した。 『田舎館村「稲華会」憲章』が制定され、会員の田舎館産米のブランド化に対する意識統一が進んだ。 「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で会員2名が特別優秀賞、「あおもりの旨い米グランプリ」で1名がグランプリ、2名が準グランプリを受賞した。	13
	9「青天の霹靂」の付加価値づくりと良食味・高品質生産の推進	中南管内「青天の霹靂」作付者、津軽みらい農協特A米プレミアム研究会	令和元年産米の成績は、生産目標達成率91.7%（玄米タンパク質含有率6.0%以下）、出荷基準達成率99.7%（同6.4%以下）、単収8.4俵と過去5か年で最も良好であった。 重点指導農家も、出荷基準達成率が100%であった。	14
	10「津軽のミニトマト」の産地力強化	JAつがる弘前ミニトマト生産者、JA津軽みらいミニトマト生産者	平成27年から栽培を始めた新規生産者の販売量は134t増加し446tとなった。 省力技術等の導入戸数は17戸増え37戸、10a以上の作付戸数は11戸増え93戸となった。 2農協合わせたミニトマト生産者は10戸増え216戸、作付面積は1.9ha増え21.8ha、販売額は2年連続で8億円を超えた。 ワンランク上の商品づくりについては、サンプル提供の継続や調理用品種の試験栽培、地元売場への供給をJA部会が主体的に取り組むこととなった。	15
	11 りんご黒星病被害防止に向けた総合防除対策の推進	管内りんご共防連	実証試験により判明した散布ムラの発生しやすい条件や改善策について、共防連の役員等を対象とした講習会で情報提供し、散布ムラの解消を呼び掛けた。 農協が中心となって散布ムラの確認と改善策の検討が行われ、効果的な薬剤散布に対する意識が高まった。 越冬落葉の処理の重要性について理解が深まり、一部で落葉収集が行われた。 被害果の摘み取りや適正防除が徹底されたことから、ふじの被害果発生率は前年を下回った。	16
	12 中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大	弘果シャインマスカット作付者、JAぶどう生産者協議会、JAつがる弘前桃部会、JA津軽みらいもも生産協議会、JA相馬村もも生産者、JAつがる弘前さくらんぼ部会	シャインマスカットの出荷者は59人、出荷量は13.9トンに増加し、品質の高い果実が生産されるようになった。 また、2月の研修会には120名の参加があり、良品生産への関心が高まっている。 ももはせん孔細菌病の発生も少なく、生産量385トン、販売額175百万円で、生産量、販売額とも過去最高となった。	17
※三八	13 軽量野菜の作付推進	JA八戸野菜総合部会 ピーマン・パプリカ専門部、キャベツ・インゲン・ソラマメ専門部	推進チーム活動により、情報共有が図られ、軽量野菜栽培への関心が高まった。 実証までの取組により、省力的な栽培方法についての可能性を示した。特にスナップエンドウについては、新たな作型（秋収穫）についての関心が高く、取組農家は品種の選定や病害虫防除等を検討しながら、今後も栽培を継続していきたい意向を示した。 セミナーには50名が参加し、軽量野菜の現状と今後の動向、他県の取組事例について学んだ。参加者からは、実証ほの取組について質問が出されるなど、関心の高さが伺われた。	18

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
三八	14 安全・安心をPRできる農産物の生産推進	管内の生産者	三八地域初となるGLOBAL G. A. P. の認証を令和元年9月に取得した。 新郷村長への報告、新聞等の取材等により、GAP認証効果を強くPRし、他の生産者に対するGAP認証取得への取組機運を高めた。 GAP認証取得を契機に、他の生産者においても、GAP認証取得に向けた動きが見られ、認証審査に向けて継続的に指導を進め、今後も認証取得が期待される。	19
	15 地域に合った高品質酒米の生産	八戸農業協同組合水稲部会三戸酒米支部	「華吹雪」については、土壌診断に基づき減肥やケイ酸資材を施用するよう指導した結果、玄米タンパク質含有率が低下し、普及計画で掲げた目標を達成した。 「華想い」については、展示ほの合同巡回や成績検討会を通して、三戸地域においても栽培が可能と判断され、さらに、地元実需者から「申し分のない品質」との評価を得て、本格的に栽培された。 新品種「吟烏帽子」については、生育、収量等の特性が把握され、収量の向上が図られた。	20
西北	16 極良食味品種「青天の霹靂」の高品質・良食味生産	「青天の霹靂」作付者	西北地域の平均単収（出荷量）は10a当たり8.3俵で、普及計画の年度目標8.0俵を上回った。また、飯米分を含めた単収は8.8俵で県の生産目標「9俵程度」をほぼ達成した。さらに、玄米タンパク質含有率の生産目標6.0%以下の割合は82.6%で、年度目標80%を上回り、出荷基準達成率も99.4%となり、高品質・多収となった。	21
	17 スマート農業を活用した大規模稲作省力作業体系の構築	(株)十三湖ファーム、津軽米づくりネットワーク(41名)、五所川原広域水田フル活用推進協議会	密播苗区における10a当たり労働時間は、慣行対比80%の16時間、収量は122%の709kgを達成した。 自動水管理装置で、7月、8月の作業時間を74%削減できた。 ドローンによる農薬散布時間は1ha当たり12分13秒で、目標の20分を大幅に削減できた。 次年度も実演・調査し、大規模経営体向けの機械化一貫体系を構築する。	22
	18 中小規模稲作経営体への野菜導入による経営の安定化	中泊町の中・小規模稲作経営体、新規就農者	西北型水田農業推進協議会の設置及び推進会議の開催により、情報共有と意識統一が図られ、関係機関の連携強化につながった。 野菜導入実証ほの設置と現地検討により、生育の推移及び栽培作業過程が理解され、野菜3品目が十分栽培可能であることが確認できた。 研修会において、水田における野菜導入に向けた意識啓発が図られた。	23
	19 シャインマスカットの産地育成	シャインマスカット生産者等	『西北の「シャインマスカット」産地育成会議』を設置し、連携強化を図りながら、基本技術の普及や栽培マニュアルの作成等の取組により、五所川原市やつがる市、中泊町の水田地帯では水稲育苗ハウスの有効活用で、また、鶴田町のぶどう地帯では露地で作付けが拡大され、令和元年（平成31年）の栽培面積は5.4haとなった。	24
	20 地域をリードする農山漁村起業の推進	西北管内の産直施設、グリーン・ツーリズム実践者、農山漁村女性起業家	女性起業家への支援により、新商品開発や経営に関する技術や知識が高まったほか、新規で4起業体を育成した。また、産直組織では新たに1組織が集客を目指したイベントを実施し、1組織が検討中である。 また、韓国訪日団を西北地域で受け入れることになったこともあり、新たに4名が農家民宿営業許可を取得するなどグリーン・ツーリズムの取組を始めた。	25

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
上北	21 優良種苗供給体制強化によるにんにく産地の再構築	J A ゆうき青森野菜振興会にんにく部会、J A ゆうき青森野菜振興会種子部にんにく部門、上北にんにくプロジェクトチーム	生産者段階における種苗増殖ほ場では、ウイルス罹病株の抜取りが不徹底であり、伝染源となって再感染していることを講習会で生産者に周知した。 診断の結果、線虫被害が確認された生産者に防除対策技術を個別指導し、次作の対策に結びつけた。 乾燥施設のサーモグラフィ画像は温度ムラの状況が一見して分かり、乾燥上の障害の改善につながった。	26
	22 水稲(主食・飼料用)の省力技術導入及び飼料用米専用品種の作付拡大	(農)赤沼営農組合、(農)中矢営農組合、十和田アグリ(株)、(有)みらい天間林、(農)フラップアグリ北三沢	管内の省力・低コスト栽培(直播栽培、高密度播種移植栽培)面積は平成30年の705haから950haに増加した。 管内の飼料用米専用品種作付割合は平成30年の66%から69%に増加した。 飼料用米有望系統(青系201号)の収量性が直播栽培でも既存品種を上回ることが確認され、担当農家から高い評価が得られた。	27
	23 夏そば新品種「夏吉」の導入による上北そばの知名度向上と産地の拡大	上北そば活用推進協議会、(農)中矢営農組合	は種量を増やすことにより、雑草対策の軽減と単収の増加につながった。 単収(10a): H30 34kg → R1 108kg ・「夏吉」のそば麺加工特性や食味評価が高く、通常営業で取扱いしたいという店舗が数軒あったことから、次年度の作付面積が約1haに拡大する見込みとなった。	28
	24 乳質改善共励会の活性化による酪農経営支援	管内酪農家(JAゆうき青森)	乳質改善共励会の審査結果や乳房炎原因菌検査に基づいた、搾乳衛生や飼養環境改善の支援を実施した結果、乳量や乳質の安定生産が定着しつつある。 乳質Aランク率: H30 54% → R1 54% 個体平均乳量: H30 8,444kg → R1 8,464kg	29
	25 農山村の女性が活躍できる環境づくり	管内女性農業者(V i C・ウーマン、かみきた畑美人、かみきた農と暮らしの研究会、女性起業志向者等)	市町村やV i C・ウーマンと連携し掘り起こした候補者に対して、調書作成等を支援したところ、新たに3名が認定された。 女性起業志向者に対し、商品化に向けた容器や作業性の検討、補助事業の相談に対応した結果、1名が新たに起業活動を行うことになった。 農業委員会事務局と連携し、家族経営協定の啓発活動を行った結果、十和田市で2戸、三沢市1戸、七戸町1戸、東北町1戸が新たに家族経営協定を締結した。 セミナー等で農作業環境改善事例集を配布・啓発した結果、働きやすい環境づくりについて意識が高まった。	30
	26 農福連携による障がい者の農業就業の促進	管内福祉事業所、農協、農業者等	研修会の開催や農協への委託により、農業者と福祉事業所の今年度の新規マッチング件数は3件となった(ながいも支柱設置、にんじん収穫、ごぼう収穫)。 ・障がい者継続支援B型事業所の受託作業の取りまとめを行う「共同受注窓口」と作業委託を希望する農業者の取りまとめを行う「農協」が中心となり、農福連携の推進体制が整備された。 ・来年度は、2件の作業受委託契約が結ばれるほか、作業受委託に向けた新しいマッチングが行われる予定である。	31

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
下北	27 下北地域の農業を担う新規就農者の育成	農業次世代人材投資資金活用者、認定新規就農者、新規就農者等	新規就農者「農業力」養成塾では、参加者の栽培技術や経営管理能力が図られ、実証ほの設置により省力化技術への意識が高まっている。 営農上の課題を新規就農アドバイザーへ相談することで、迅速な課題解決が図られ、能力向上につながっている。 しもきたマルシェでは、販売の実践を通じて、回を重ねるごとに消費者への声かけや商品説明を積極的に行う等、販売力が向上している。	32

- ※東青：東青地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
(管轄市町村：青森市、平内町、外ヶ浜町、今別町、蓬田村)
- ※中南：中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
(管轄市町村：弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、西目屋村、田舎館村)
- ※三八：三八地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
(管轄市町村：八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村)
- ※西北：西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
(管轄市町村：五所川原市、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、板柳町、鶴田町、中泊町)
- ※上北：上北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
(管轄市町村：十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町)
- ※下北：下北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
(管轄市町村：むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村)